

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年11月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600149
法人名	医療法人 互舎会
事業所名	グループホーム はまなす
所在地	鹿児島県阿久根市脇本9093番地2 (電話) 0996-75-0320
自己評価作成日	平成27年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の医療機関の敷地内に設置されている利点を活かし、医療面での24時間早期のバックアップ体制が整備されています。利用者様及び御家族のひとり一人の思いや希望を大切にしながら、安心と尊厳のある生活が送れる様に支援しています。はまなすは地域の高台に位置しており、散策時には小、中学校の校歌に歌われている笠山や、田園風景、お寺や学校、買い物に行くスーパー、海(阿久根大島)が眺望できます。近くには日本3大急流の一つ黒の瀬戸もあり、桜の花見やドライブのコースになっています。また文丹保育園との交流会も利用者がとても楽しみにしている行事でもあります。地域の人達のボランティアの訪問や園の夏祭りには、はまなすの職員が緑日の手伝いに行って園児との触れ合いを深めています。ホームの畑や花壇を見学しに病院患者様も立ち寄られることもあり、一緒にお茶を飲んで話をしたりして交流しています。農産物の直売所に買い物に出かけ、季節の野菜や果物を購入したり、友人知人と談笑しながら社会参加の機会を作り楽しい時間を共有して貰っています。又、生活の様子を写真に取り、遠方の家族や友人、知人に送っており、大変喜ばれています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年11月16日

- ・当事業所は、母体医療機関が隣接しており、定期的な受診や緊急時の対応などの医療連携体制が整っている。
- ・校区の運動会の見物や事業所の夏祭りなどに地域住民を招待したり、保育園へ手作りの雑巾などの寄贈や園児の訪問、小学校の児童との交流、実習生やボランティアの受け入れなども行っている。地域の物産館に出かけたり、散歩の際には挨拶や会話を楽しんでいる。
- ・地域で認知症サポーター養成講座を開設し、地域住民や家族も受講するなど、認知症に対する正しい知識と対応等を発信している。
- ・年2回消防署立会いのもと、昼夜想定避難訓練と、毎月の自主訓練を行っている。スプリンクラーや緊急通報装置も設置され、隣接する医療機関や職員寮・地域住民との協力体制もできている。
- ・管理者は職員育成に力を入れ、各種研修会等への出席を奨励している。職員は、ほぼ全員有資格者で、勤務年数も長い。職員間のコミュニケーションが良く、ケア対応等に反映している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の尊厳、安心、自立について共通した認識を持ってケアが出来るように、勉強会の中で理念の再確認をして、課題を話し合いながら実践している。	理念は事務所や廊下・居間等の目の付きやすいところに掲げ、パンフレットにも掲示し、外部への周知やいつでも振り返りができるようにしている。勉強会で理念に沿ったケアの実践について職員全員で話し合い支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々の定期的なボランティア訪問や近隣の保育園・小学校の園児や児童の訪問等で交流の機会を設けている。	校区の運動会の見物や事業所の夏祭りなどに地域住民を招待したり、保育園へ手作りの雑巾などの寄贈や園児の訪問、小学校の児童との交流、実習生やボランティアの受け入れなども行っている。地域の物産館に出かけたり、散歩の際には挨拶や会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ホームでも認知症サポーター養成講座を開いて、地域の人達や家族、運営推進委員の方達が受講され、理解や支援の方法を学ぶ機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>推進会議では利用者状況や日常的な取り組み、ホーム内のインシデント、アクシデント等を報告し、家族、推進委員、行政の方達から出された意見をケアに活かせるようにしている。</p>	<p>会議は2ヶ月毎に開催している。利用者の状況や事業所の活動・外部評価の報告・インシデント・アクシデント事例・課題などを報告している。会議での情報や提案を職員で共有して、具体的なサービスに活かしている。認知症サポーター養成講座など勉強会も行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>介護保険課、包括支援センターの職員、生活保護の担当者方達と、定期的に情報交換し利用者の実情を伝えている。市町村との連携を図り、協力関係は構築している。</p>	<p>市の担当者とは、利用者の相談や情報を交換してアドバイスを貰っている。市主催の研修会にも積極的に参加している。生活保護者や成年後見制度の利用者がいるので連携を取り合っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関する知識の勉強会を年間研修計画の中で定期的に行っており、日々のケアで言葉かけの仕方など、自己を振り返りながら実践している。玄関の施錠は夜間のみとしている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を中心に職員会議やミーティングの時、事例をあげて身体拘束をしないケアを実践している。言葉は、馴れ合いになりがちなのでお互い注意しあっている。玄関の鍵は日中開放されていて、外に出る利用者がいても一緒に寄り添い散歩をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体面だけでなく言葉や、態度などケアの全てが虐待にならないよう、勉強会でケアの振り返りをしている。併設病院の医療安全身体拘束廃止委員会に毎月出席している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度への理解は勉強会で研修しており、知識の習得や、個々の利用者の利用状況を理解している。運営推進会議でも社協の専門職員による研修会も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居申し込み時や入居決定時、重要事項の説明や運営規定の説明をし、理解、納得して戴いた上で契約している。料金の改定時も文書を交付し説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の思いや、家族の思い、希望や意見、提案等面会時や電話などで把握したり、年1回家族アンケートを実施し、意見、要望が運営に反映できるようにしている。	日頃から話しやすい関係作りに留意している。利用者からは日々の関わりの中で希望などを傾聴し、会話やしぐさなどを記録に残している。家族からは面会の折や運営推進会議時に意見を聞いている。年1回アンケートを実施したり、毎月の園便りに利用者のコメントを記入し意見等を聞いている。出された意見や要望等は職員で話し合い運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勉強会や日々の勤務の中での個々の意見が運営や業務改善に繋がるように事務長やSWに提案している。職員との個別面談等で、意見や要望等運営に反映している。	管理者は日々の業務や職員会議・ミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。年1回個人面談を実施し、相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。開設当初からの職員が多く、職員間の連携もよく取れており、意見も気軽に言いやすい雰囲気ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格手当や介護手当での支給、基本給のアップ等給与水準や職場環境は改善しておりスタッフも資格取得に向けて向上心を持って働いている。希望休み等配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には全職員が交代で参加している。病院合同の研修やGH協会の研修等積極的に参加し、個々目標設定してスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム協会に加盟しており、研修会や交流の機会を持ち他事業所の取り組み等を知り業務の見直しや改善に役立っている。管理者同士の交流でも情報交換し、ホームの質の向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時には事前に情報収集し、表情や動き等観察、洞察しながら本人の不安をキャッチし、職員や他の利用者に対して、安心感を得られるような言葉掛け、配慮をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時や利用開始時には家族が困っている事、不安に思っていることや要望等聞いて入居後の生活の様子を伝えながら、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の心身の状態や発語などをケース記録に記録し、主治医と連携を図りながら家族、スタッフと情報交換して中核症状周辺症状を見極めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事をしてもらいながら、達成感や有用感が感じられる場面を作り生活の中で学ばせて頂いており、支えあう関係ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も行きつけの美容院や、墓参り、法事や慶事の外出交流支援をしたり、体調不良時には病院受診も付き添われ、共に支えている関係である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人（家族、地域の人、友人、知人、関係者）との交流や馴染みの場所（自宅、かかりつけ医、お店、美容院、お墓）へ出かけ関係が途切れないような支援をしている。	友人や知人の訪問を奨励している。知人の面会が多く、お茶を出したり、面会に来やすい雰囲気作りに取り組んでいる。地域行事に積極的に参加し、自宅訪問や行きつけの買い物店・理美容院・墓参などに、家族の協力を得たりして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングや食卓椅子などの座る場所は馴染みの関係性を把握、考慮して調整している。利用者同士がお互いの居室を訪問したりして良好な関係性が維持できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院退所された利用者にも面会に行ったり、死亡退去された利用者の家族が訪問されることも多くこれまでの関係性を大切にしながら、本人、家族の相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしを通して一人ひとりの希望や、その思いを把握して本人の意向に沿った暮らしが継続できるように情報共有し、ケアプランに活かし支援している。	本人や家族等からの情報をもとに、利用者の日々の様子を観察し、言葉や表情から思いや意向の把握に努めている。記録帳類を活用したり、職員間の情報交換を密にして支援している。会話が難しい利用者には家族や知人などから聞いたり動作やしぐさなどから推測し、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のサマリーや日々の暮らしの中で語られた言葉、家族の面会時に得られた情報をケース記録に記載し、勉強会で情報共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活パターンをアセスメントし、行動、言動をケース記録に記録したり連絡帳、申し送り等で利用者の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の勉強会や、3ヶ月に1回のモニタリング、受診時に主治医の意見を聞きながら本人の希望家族の思い、職員や必要な関係者と話し合いながら現状に即した介護計画を策定している。	本人や家族の意向を確認し、主治医やその他必要な関係者と話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、状況が変化した時はその都度、介護計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、職員の申し送り帳や連絡帳、インシデント報告書、サービスチェック表に具体的に記録して職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への受診介助や他科受診時の服薬状況の提供、外泊準備、理美容の利用、洗剤や紙パンツ購入等家族に代わって出来る支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア登録者の把握等社協のコーディネーターと連携を取りながら利用者が楽しみのある豊かな生活が送れる様に支援している。生き生きサロンへの参加も声掛けしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院受診時には同行して主治医に心身の状態を報告、相談して、適切な医療と処方に繋げている。他科受診の必要時は処方箋や情報提供をし適切な医療を受けられる配慮をしている。	かかりつけ医は本人や家族の希望に添うようにしている。歯科や耳鼻科など他科受診の際は情報提供し、家族の意向に応じて支援している。緊急時の対応は24時間医療連携体制ができてい	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	併設病院の看護職員と24時間バックアップ体制が整い、利用者の状態をタイムリーに伝え、相談しながら医師の指示を仰ぎながら異常の早期発見と状態の悪化防止に努めている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	併設病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカー、入院先の連携室と利用者の状態をタイムリーに情報交換しながら連携を図り早期に退院出来るように協力体制を構築している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	本人や家族に対して終末期の希望を聞きながら医療との連携を図り看取りケアを実施している。看取りケアの指針を作成し家族や運営推進会議で説明している。看取りケアについて同意書の確認も随時貰っている。	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し同意書を貰っている。状況変化に従い主治医の診断を踏まえて、家族に状況を伝え、随時意思を確認している。看取りケアの指針があり、看取りの事例もある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	応急手当や初期対応についてはマニュアルや勉強会で研修し、定期的に阿久根消防署の普通救急救命講習を受講している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設病院の災害防止対策委員会に毎月出席し、避難誘導通報訓練は全職員交代で行い、利用者を安全に避難誘導できるように訓練している。病院職員の応援体制も整っている。</p>	<p>年2回消防署立会いのもと、昼夜想定避難訓練と、毎月の自主訓練を行っている。スプリンクラーや緊急通報装置も設置され、隣接する医療機関や職員寮・地域住民との協力体制もできている。運営推進会議をかねて行うこともあり、参加者から気づきを聞くこともある。災害時の食糧等の備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉使いやプライバシーを配慮した対応の仕方など、職員同士で注意できないときは、勉強会で話し合い自己覚知に努めている。	定期的に勉強会を行い、事例を出して利用者の人格の尊重とプライバシーについて、職員の資質向上に取り組んでいる。言葉かけなど馴れ合いにならないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外気浴や散歩、空調設備の利用、レク参加の有無、家族への電話の取次ぎ、湿布の貼用等、気軽に表出し自己決定して貰っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週単位、1日の流れは設けているが無理強いすることは無く、今何をして過ごしたいか意向や希望を聞いて、一人ひとりのペースに添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問美容を定期的を利用して髪をカットし、おしゃれを楽しまれている。整容が不十分な方にはさりげなく支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜や魚を使って料理したり、農、海産物直売所で利用者が選んだ食材で調理し食事を楽しまれている。食事の準備や片付け等、手伝われている。	食事の準備やつわぶきの皮むきなど利用者の力量に応じて職員と一緒にしている。旬の食材を使用したり、捕れたての魚料理や誕生日・行事食など、楽しめるように工夫している。一緒に市場などに買い物に行って自分で選ぶ楽しみも支援している。家族と外食に行く利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みの食材や硬さを把握しており、水分量や食事の摂取量を記録し、咀嚼、嚥下力に応じた調理をして提供している。高カロリー食や、ジュース類、ポカリも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは確実に一人ひとりの力に応じて歯ブラシ、スポンジ、ガーゼ等で介助し、舌苔や口臭の除去、義歯の洗浄、口腔内の清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表や、本人の動き、表情観察、時間誘導でトイレでの排泄を促している。排尿や排便があったら共に喜び排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の自立支援に向け、排泄記録から排泄パターンを把握し、誘導や声かけの工夫でトイレでの排泄を大切にしている。夜間のポータブルトイレ利用者もいる。排泄用品も個々に合わせて検討している。排泄の自立ができて利用している利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維質の多い食材や野菜を多く取り入れ、牛乳、ヨーグルト、サツマイモ使用しながら調理し自然排便を促している。必要時には暖下剤を服用して貰っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意思を尊重しながらタイミングに合わせて入浴して貰っている。日曜日を除き毎日入浴できる配慮はしており、個々に応じた入浴介助をしている。	入浴は基本的に週3回であるが、日曜日以外は、いつでも入浴できるようにしている。体調や希望に添った入浴ができるように対応し、2人介助などの配慮もしている。入浴剤を利用するなど楽しめる工夫をしている。シャワー浴や足浴・清拭なども行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を通じて生活のリズムを整え、その時々状況や其々の過ごし方を尊重して照明や室温など配慮しながら休息や安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬や臨時薬を確認し薬の変更があったら連絡帳、ケース記録に記載し症状の変化等記録している。定期的に、利用者の服薬状況を確認理解している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持てる力を発揮して貰い有用感が感じられる場面作りをしている。ドライブや買い物レク活動、ボランティアの訪問で楽しい時間を過ごせるよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域への外出や普段行けないような場所への外出はスタッフの人員体制を強化したり病院職員の応援を貰いながら出掛けている。家族の協力を得て外泊や墓参り等に行かされている。	日常的に天気が良い時や体調の良好なときは、近所を散歩したりテラスでお茶のみを楽しんでいる。個別にドライブや買い物に出かけている。計画を立てて、地域行事に参加したり、医療機関の職員の協力を得て花見や出水の鶴など見物に出かけている。家族の協力による外出や外食・墓参の支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを持って生産直売所に行き自分でお金を払ったり必要な物品（紙パンツ、洗剤）や嗜好品の購入時にお金を払う機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が希望された時には家族や友人知人と電話で語れるように支援している。月便りのはがきにコメントを書いて貰い、生活の様子を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには季節の花を生け居間や食堂には行事等の思い出の写真を飾っている。テラスにはベンチを置きいつでも外気浴が楽しめるよう工夫し、音や光が不快や不安な気持ちにならないよう配慮している。	共用空間は広くて明るく、換気や採光、温度・湿度に配慮し清潔である。リビングから直接テラスに出て、外気浴やお茶飲みもでき、開放的である。季節感のある飾りつけなど工夫され、日常のレクリエーションの状況等の写真が居間や廊下に掲示されている。ソファも多くあり、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファや椅子を置き思い思いに気の合う人とゆっくりと過ごせ、職員室や他の棟にも気軽に訪問しながら馴染みの人との交流が図れるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や寝具等好みの物品を居室において使用されている。写真や壁掛け等飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	居室はゆったりしており、ベッドと洗面台・押し入れが備え付けである。寝具や時計・写真・壁掛け飾り・小物など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺が付けてあり、安心して歩行が出来るようにバリアフリーの作りになっている。自室が分かる様に居室の入り口には本人の写真が貼ってあり、建物は安全に自立した生活が送れる様に工夫してある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない